

協働・連携に関する他部会での意見

部会	テーマ	意見の概要
1	防災	<p>○災害時の支援物資の目詰まり、必要なものが届かない等の二次被災が実際に起きている。自治体間の有効な連携・協働をどのように進められるか、実装化していくための取組が必要である。</p> <p>○災害時だけでなく、普段においても役に立つ取り組みが必要である。たとえばキッチンカーの営業者は独自のネットワークをもっているため、ある市では駐車場（遊休地）を活用させるかわりに、災害時にはキッチンカーを集めてもらうよう協定を結んだ事例がある。</p> <p>○大手企業は国と連携しているため、自治体とは協力が難しいという実態がある。区内の事業者と連携し、できるだけ地域の中で対応する必要がある。</p> <p>○自宅避難者等へのプッシュ型支援も重要である。企業、住民、NPOを含め、日常から災害時のリスクを共有し、発災時には役割を分担し協働できるまちが一つの目標。そのための手法、連携、協定を検討する必要がある。</p>
1	防犯 まちづくり	<p>○防犯については、行政に任せきりではいけない。たとえば区は花咲かせ隊の活動が空き巣被害の減少に寄与した事例があった。街角緑化など、みどりを通じた交流が増え防犯に寄与する。</p>
1	まちづくり	<p>○地域公共交通計画を原則として全ての自治体が策定することとなったが、公営企業の協力という観点からも基本構想に盛り込むべき論点だと思う。</p> <p>○都市部は道路幅が困難なため、道路空間の再編成が必要。その上で移動すること自体が楽しいことが大事であり、たとえばシェアサイクルなど民間事業者の力をもっと使うべき。</p> <p>○交通に関しては隣接する他区との連携が必要である。他区との連携を進めるプロジェクトの立ち上げが必要。</p> <p>○現在の協働は行政の下請け的なものが多い印象だが、今後は区民力を引き出せるような主体的な協働というステージに移るべきでは。シェアするという視点（シェアリングエコノミー）が必要でないか。空きスペースや空き時間、個人の持っている技術などをICT活用によりシェアして、まちづくりに生かせないか。</p> <p style="text-align: right;">【次ページへ続く】</p>

部会	テーマ	意見の概要
		<p>○まちづくりでは、官民連携の取組が協働でないだろうか。行政だけでは議論が広がらない。</p> <p>○行政によるまちづくりのサポート体制は必要。区内の専門家をつなぐ仕組みづくり、コーディネートの最初は行政が行ってもよいが、全てを担う必要はない。区民同士が支援し合うことが必要。NPO などへの中間支援でもよい。</p> <p>○協働の観点では、都市計画などは住民発案になりづらい。区民アンケートを見ると、区民の生活に近い福祉や出産・子育ての関心は高い。区民の生活の延長にまちづくりが位置付けられていないと協働することは難しいのではないかと。</p> <p>○協働には逆転の発想が必要。協働が進まない一番のネックは行政側にある。官が上で民が下となっている。外部から人材を登用して役所側を変える、サポートする方策が必要である。</p> <p>○まちづくり分野の協働においては、関係者が顔を突き合わせる場が必要である。</p>
2	地域包括ケア	<p>○国の新しい方向は、法人の連携化であるが、なかなか進んでいない。国は地域共生社会という言葉を使っている。地域共生社会は多世代型の地域包括ケアシステムだけではなく、よく自助・互助・共助または公助というが、民間企業をどう参加させるか、そういうことを含めて地域共生社会の検討が必要ではないか。</p>
2	共助	<p>○近隣関係がないゆえのごみ出しのトラブルなどは、自身だけで解決できるのか、行政の負担が増えるのではないかと。これからは共助ではないか。課題になるのは地域の人同士でどう支えていくかだ。</p>
2	将来像	<p>○現在の基本構想に掲げられている「支え合い共につくる～」という言葉のうち、「共につくる」という部分は、協働をみんなに広めようということを含めてうまくいっていないように思うが、「支え合い」という部分は区民の間に広がっていると思う。</p>
2	介護	<p>○当事者に向けた計画だけでなく、だれかを支えようとする人への支援、ダブルケア世代のサポートが大切。介護や福祉にかかわっていない人たち（若者など）が、どうやって人が人を支えていくかという視点を持って進めていく必要がある。</p>

部会	テーマ	意見の概要
2	医療・介護	<p>○医療と介護をどう一体的にするかが全体的な課題であり、フレイル予防はそういう意味では実験例と思う。これまでは公助に頼りすぎるきらいがある。もう少し自助、互助の努力をすべきである。</p> <p>○杉並区約 33 万世帯の半数以上が一人暮らし世帯である。一人暮らしの高齢者をどう支えていくのか。支え合う、助け合うという関係は今回の基本構想でも大事である。町会の役割、活性化が必要。</p>
2	医療・健康	<p>○この 10 年 20 年で在宅医療体制や介護保険サービスはとても充実してきている。様々なサービスや情報をチームで連携することも慣れてきており、ICT を今後取り入れると、在宅で過ごせる時間が伸びてくると思う。専門職でなくてもいい見守りなどの支援が必要なときに、住民が相互に支え合える、一般の方々が参加できる仕組みがあると有効。</p>
3	子ども子育て	<p>○現基本構想の 10 年後の姿に「地域の持つ豊かな子育て力・教育力」とあり、これは地域の人材を生かしていくイメージだが、実際の取組としては行政サービスのことしか記載されていない。</p> <p>○行政も近いうちに限界が訪れる。今の日本は親が孤立している。かつては、隣近所で親子がつながっていた。国は子育て支援センター等を作り親子が集い関係をつくれるシステムをつくろうとしている。行政がきっかけをつくるのが求められている。杉並区は地域住民の意識も高く、NPO も多い。行政がその力を引き上げてサポートし、生かしていくことが求められる。</p> <p>○この 20～30 年の傾向で、野球チーム・サッカーチーム、塾といったコミュニティが発達し、そこが居場所になっている子どもも多いと思う。今後、そういう場所が行政とコラボレーションすることになるのではないか。</p> <p>○最後の砦は行政かもしれないが、区民に自分たちで自分たちの社会をつくろうと思ってもらわないと厳しい。自治、助け合っていく仕組みとして組み込んでいかないと、この社会が心配である。</p>